

提案型協働事業報告書 (活動支援交付金)

<p>団 体 名</p>	<p>バリアフリーコラボレーション実行委員会</p>
<p>1 該当する 町の施策方針</p>	<p><b>基本目標 3 ふれあいのあるまち</b>                  2 誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できるまち                  ③ 文化・芸術・科学に触れる機会を充実する。  <b>基本目標 5 いきいきと暮らせるまち</b>                  2 高齢者や障害者がいきいきと暮らしているまち                  ③ 障害者の自立を応援する                  3 みんながお互いを理解しやさしい心を持っているまち                  ① 地域ぐるみで福祉を支える</p>
<p>2 解決へ向けて取 組んだ地域課題</p>	<p>①インクルーシブ教育システム構築                  共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づきインクルーシブ教育システムの構築が求められている。そこで私たちは、障がい者とふれ合う場面をつくることで、互いの理解を深めた。                  ②知らないことから生まれる差別                  愛知県の障害者差別禁止条例の概要版をプログラムと共に配布した。また、障害者「ヘルプカード」を会場で配布した。「無関心」をなくすため、企業や NPO 団体など広くイベントの告知を行った。                  お互いの存在を知り、認めあえる環境をつくるのが大切であることから、障害のある方の出演者の公募を行った。</p>
<p>3 協働対象部署</p>	<p>生涯学習課、福祉課</p>
<p>4 事業の内容等                   (1) 事業内容と方法                  (2) 実施場所                  (3) 対象者                  (人数等具体的に)                  (4) 事業PRの方法                  (5) その他</p>	<p>(1) 障害のある方と障害のない人の交流の場                  ・地域で活動している障害者の出演 (歌・パフォーマンス)                  ・障害者とミュージシャンの共演                  ・音と光のコラボレーション                  ・ボランティアの育成                  ・地域に存在する団体に呼び掛けて、一緒に企画運営をした。                  (2) ゆめたろうプラザ 響きホール                  (3) 出演者：横井則子、唯見和孝、小川和也、勝良平、松下晋開、出口大耀、田島美和、池谷晶子、稲田貴久 hiromi、kenzo、竹内すず、竹内郁弥、市川愛歌、市川恵士、間瀬祥太郎、山田大斗、堂森勇希、牛田有香、人形劇団紙風船 16 人、手話ソング dream☆姫 6 人、どんど鼓 16 人 (57 人)                  スタッフ・協力者 (56 人)                  来場者：261 人</p>

	<p>(4) チラシの配布 13,200 部  町内の小中学校、各種 NPO 団体、協賛企業など  特別支援学校（半田・桃花・ひいらぎ）  5 市 5 町特別支援学級の生徒  町の広報誌、新聞掲載</p> <p>(5) Facebook、ホームページでの広報</p>
<p>5 事業実施により得られた効果</p>	<p><b><u>障害者に対する理解を広げる。</u></b>  &lt;これまで福祉に関心のなかった方も、音楽を通じて障害のある方とつながることができる。&gt;  結果：さらに努力する必要がある。  当日来場した人は関心がある人や、当事者やその関係者がほとんどであったが、関わりの少なかった人が障がい者理解を深めることが出来た。  課題：企画会議やボランティアへの参加をもっと広く募る。  備考：<u>福祉に関心のなかった方から「障がい者福祉との関わりが少なかった」へ変更する</u></p> <p>&lt;障害の有無にかかわらず、音楽を通じて、みんなが一緒に楽しむ時間と環境をつくることで「知らない」というバリアをなくし、障害に対する理解を生み、差別や偏見をなくすことができる。&gt;  結果：ほぼ達成できた。  障がい者と健常者が一緒に演奏し表現する場で、楽しい時間を過ごすことができた。</p> <p>&lt;障害のある方と出会う機会を得た子どもたちは、将来、障害のある方々のよき理解者となる。&gt;  結果：多くの効果があった。  特別支援学級の小学生がプロの演奏者と共演する姿を、多くの友だちが見に来ていた。  課題：子どもたちの来場者を増やすために、小中学校への広報と企画の工夫が必要である。</p> <p>&lt;「バリアフリー」をテーマに、音楽で障害者とミュージシャンが共にコラボする姿を通じて、ステージを支える裏方スタッフ、来場者すべてが、障害のある方に対する理解者となる。&gt;  結果：大きな効果があった。  プロの演奏者が効果的に支援をすることで、よりよい演奏に高めることが出来た。その結果、大きな自信につながり自立への足ががりとなった。  来場者には今まで以上に行政関係者が多く、事業の様子を直接見てもらうことが出来た。  課題：企画や当日のボランティアにも直接関わってもらえるように働きかける。</p> <p>&lt;町の広報誌、ケーブルテレビ、新聞社などを活用し、イベントの紹介をすることで、障害のある方に対する理解の啓発をす</p>

	<p>る。&gt;  結果：大きな広報が出来た。  各メディアで事業の広報が行われ注目を集めることが出来た。  課題：今後も広報に努力したい。</p> <p><u>障害者の生きる意欲を高める。</u>  &lt;地域で暮らす障害のある方が、ミュージシャンとコラボしてステージに立つことでの感動を味わい、新たなチャレンジへとつながる。&gt;  結果：表現へ大きく意欲を高めることが出来た。  出演者の公募への高い関心や、手話ソングへの努力と素晴らしい成果、プロとの共演での素晴らしい演奏など。  課題：出演の機会を提供し続ける。</p> <p><u>つながりを継続していく。</u>  &lt;この企画は1回限りで終わるものではなく、毎年実施することで、障がいのある方への理解が深まり、ミュージシャンや地域のボランティアの輪が確実に広がっていく。&gt;  結果：多くの来場者があり、サテライト会場にも入りきれず、広い会場での公演の希望が多くあった。  今回は、企画会議を始め多くのボランティアの参画があった。  課題：行政関係者も含め、さらに多くの人の参画を心がけて活動したい。</p>
<p>6 次年度以降の事業展開</p>	<p>障害のある方にも呼びかけ、多くの協力者を募り、企画段階から一緒につくりあげていくことで、それぞれへの配慮事項を知る。  ゆめたろうプラザだけでなく、アウトリーチ企画を実施する。</p>
<p>7 その他</p>	<p>運営を諸関係者で構成された企画会議を中心に行うことで、様々なアイデアを工夫することができ、運営もスムーズに出来た。それが、演奏者や当日ボランティアの意欲的な活動につながった。また、行政も含め多様な人々の関わりのなかで、広範囲の広報が可能となり、今までにない人数と広域からの来場者を得ることができた。今後もいろいろな立場の多くの人の協働をもとに事業を進めていくことが重要になる。</p>

※ 記入欄が不足するときは、別紙を添付してください。